

事例 3. 都立公園における雑木林の小面積皆伐による更新施業

見学ポイント：数十年にわたる萌芽更新箇所やゾーニングごとの施業

名称：八王子都市計画公園第5・5・2号小宮公園
場所：八王子市大谷町、中野町及び大和田町各地内
面積：28.3ha
標高：150m
樹種：コナラ、クヌギ
造成方法：小面積皆伐
施業開始年：1987年



図1 小宮公園の位置

目的

小面積皆伐（0.2ha程度）を基本とする更新施業により雑木林の再生・維持を図る。

概要

小宮公園は、JR八王子駅のほぼ真北、標高150mの加住丘陵南東部に位置する丘陵地の公園である。園内は、コナラ・クヌギを主とした広大な雑木林に加え、明るい草原、中央を流れる小川や池などから構成され、多くの野草や昆虫、野鳥が生育・生息し、多彩な自然環境が形成されている。

この地は、かつて薪炭林として地域住民が活用し管理してきた場所に、小宮公園の整備計画に掲げられた「良好な既存雑木林と、変化に富んだ地形及び湧水地などの自然環境の保全と回復を図ることを基本とする」、「自然との触れ合いを通じて、公園利用ができるようにする」という方針のもと、昭和61年（1986年）

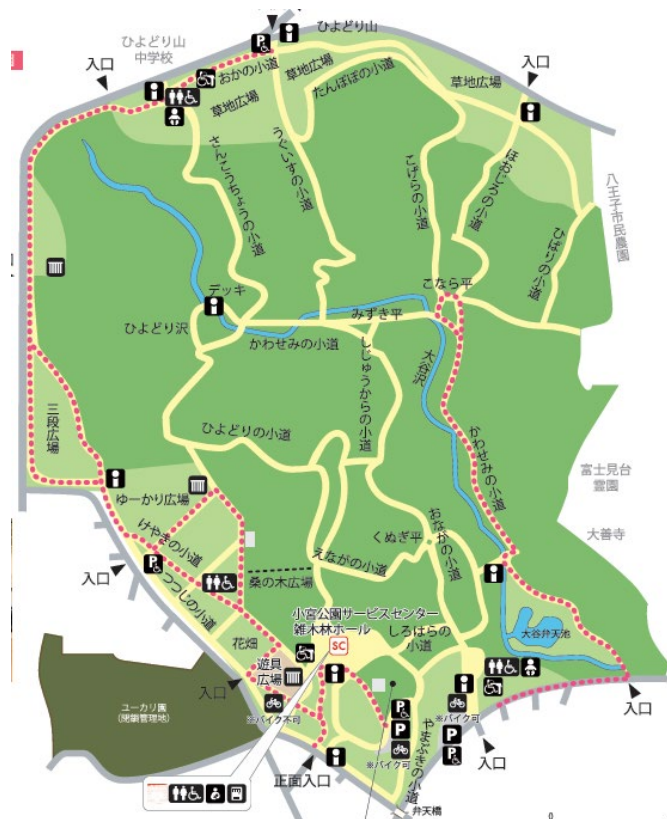


図2 公園マップ

6月に開園した。以来、レクリエーションに偏ることなく、森林保全と環境教育の場としての役割を重視した公園として整備・管理されており、2026年6月に40周年を迎える。

森林管理・施業の方針

園内に広がる雑木林は、開園当初から萌芽更新を期待した小面積皆伐により管理されてきた。現在は、園内のゾーニング（「哺乳類バッファゾーン」、「萌芽見本林」、「湿生高木保全エリア」、「高木樹種転換エリア」）に基づき、保全・再生、見本林としての維持、樹種転換など、エリアの目的に応じて設定した施業区ごとに、小面積皆伐を基本とする更新施業を継続している。これにより、施業区を循環させながら雑木林の再生・維持を図っている。

また、多様な生物の貴重な生育・生息空間となる公園を目標に、里山体験や都民協同の拠点として培ってきた環境学習や、多様な主体との協働による保全管理を推進し、雑木林等の自然環境の保全・回復に取り組んでいる。

▼萌芽見本林

コナラ・クヌギ林は0.2haかそれ以下の小面積皆伐により伐採し、萌芽更新によって森林の再生・維持を図っている。伐採の際にコナラやヤマザクラの保残も行っている。また、伐採後に切り株の周囲1mを刈る切株保護、下刈り（場合によってはつる切り）、萌芽整理などの管理作業も行っている。なお、林床の光環境を調整し更新を促進するため、主に外来植物である草本類が侵入しないよう、令和元年度頃に実証的にアカメガシワやクサギを植栽した箇所もある。

施業による効果

小面積皆伐後の萌芽更新や樹木の侵入によりコナラを主とした様々なサイズ、樹種による林分が生育し、これにより再生木と周辺林分が重なり合う多様な森林が形成されつつあり、林床の光環境の改善や園内の環境差と相まって、多様な動植物の生息・生育が確認されている。



平成元年(1989年)度更新



平成5年(1993)度更新



平成14年(2002)度更新



萌芽の様子



植栽されたクサギ

▼湿生高木保全エリア

ハンノキが自生しているエリア。東京都ではハンノキがまとまって林をつくるような地下水位の高い湿地環境(湧水・谷戸・池周りなど)に限られるため保全対象としている。



ハンノキ林の様子

▼高木樹種転換エリア

ナラ枯れ被害から樹種転換を図るエリア。特に公園利用者が多い場所に隣接する林分では、安全確保の観点から踏まえてミズキ、クヌギ、ケヤキ等への樹種転換を進めている。



高木樹種転換エリアの様子

▼野鳥、哺乳類のためのバッファゾーン

野鳥や哺乳類の生息に適した森林環境を確保するため、あまり手を加えずに更新を促すエリア。公園内外の人の利用が集中する場所や周辺の市街地・道路などの影響をやわらげるとともに水源涵養機能を持たせている。園内にはコゲラ、シジュウカラ、エナガ、ルリビタキ、トラツグミ等の野鳥や、タヌキ、キツネ、アナグマ、ノウサギ、イタチ、ハクビシン（外来生物）、アライグマ（特定外来生物）等の哺乳類が生息している。



野鳥、哺乳類のためのバッファゾーンの様子

東京都事業実施箇所

東京都が推進する「多様な生物が生息する都立公園づくり」に取り組んでいる。本事業は、「地域及び都市生態系の質の向上」、「生物多様性保全の普及啓発」、「公園利用の促進及び利用価値の向上」を目的として、都立公園において多様な生物が安定して生息・生育できる環境づくりを進めるものである。小宮公園では、本事業の一環として、ボランティア団体と協働しながら更新伐採を進めている。



更新伐を実施した森林

ナラ枯れ被害

数年前からナラ枯れ被害が発生し、甚大な被害を受けている。最近は被害が落ち着いてきており、被害木の伐採を順次進めている。今年度はナラ枯れ被害木を 70 本程度伐採した。被害木の一部は他の伐採木と合わせてチップ化し園内の歩道に敷設するほか、薪としてイベント等で活用しているが、処理が追いつかず、ほとんどは林内に残置している。そのため、残置された被害木の搬出が課題となっている。また、ナラ枯れの影響により、ここ数年で林内の光環境が変化している。今後は、ボランティア等の協同によりクヌギ林などの森林に戻していく。



ナラ枯れ被害跡地



被害木等のストックヤード



敷設用チップ

関連情報

小宮公園 HP : <https://tamaparks.com/kouen/komiya/>

関東森林研究,2015,66-2「小面積皆伐が行われてきた都立小宮公園における雑木林の更新の現状」

<http://www.kantoforest.jp/papers/pdf/66-2-A43.pdf>

問い合わせ先

小宮公園サービスセンター

〒192-0043

東京都八王子市暁町 2-41-6

TEL : 042-623-1615